



第15回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)
**地域人材による地域主導の
公共交通利用促進に関する研究 (第6弾: 総括)**
— 地元高校生と地元大学生の協働による
「大人の社会見学」事業の展開の総括 —

2020年12月20日 於:広島市

大分大学経済学部門/減災・復興デザイン教育研究センター 大井 尚司(発表者)

大分大学経済学部経営システム学科交通論研究室(孝忠桃佳・武石康希・平川誉紹・古川歩昂・三浦真輝)

大分県立三重総合高校メディア科学科 3年課題研究チーム・秋月大輔(指導教諭)

豊後大野市まちづくり推進課 伊東正史・古庄英之・衛藤宏樹

日本工営株式会社福岡支店 高峯高・白石悦二



NIPPON KOEI

本報告の構成

1. はじめに
2. 対象地域および「大人の社会見学」事業の概要
3. 2019年度(第6回)の実施内容について
4. 「大人の社会見学」参加者の意見
5. 「大人の社会見学」事業からわかったこと:まとめにかえて

1. はじめに

2. 対象地域および「大人の社会見学」事業の概要

3. 2019年度(第6回)の実施内容について

4. 「大人の社会見学」参加者の意見

5. 「大人の社会見学」事業からわかったこと:まとめにかえて

問題意識・報告内容

- 問題意識

公共交通利用者減少傾向→交通弱者の移動手段確保

… 地域の関係者が一体になって向き合う必要性

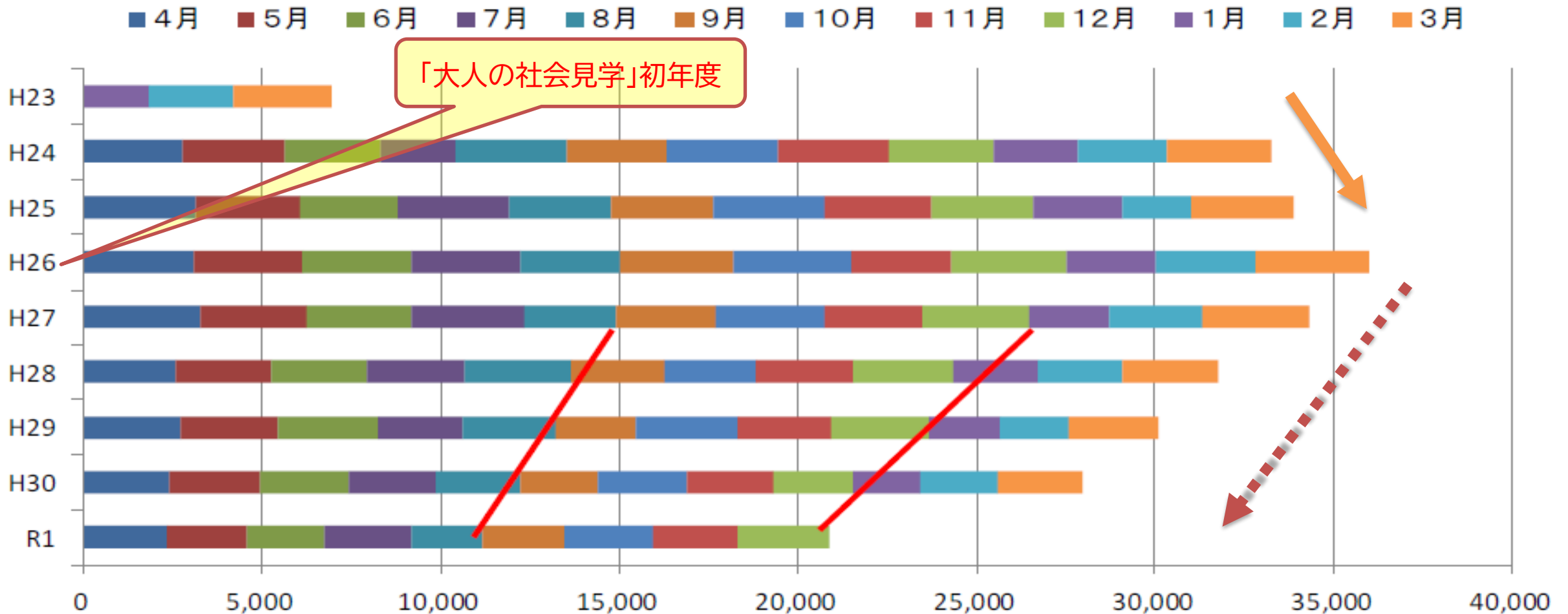
👉 「大人の社会見学」事業継続：効果は？ 続けるべき？

- 報告内容

大分大学・大分県立三重総合高校・豊後大野市(技術協力:日本工営)による「大人の社会見学」事業の報告

👉 この事業を継続すべきか？：社会実験の効果を再考
対象地域を変えて実験実施:その結果報告

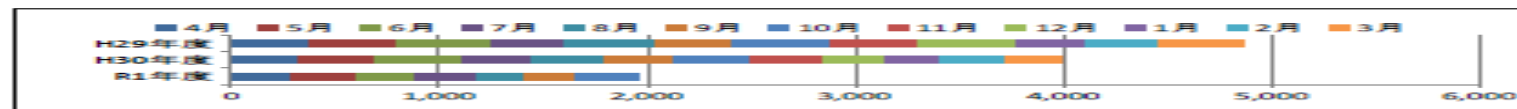
豊後大野市コミュニティバス利用状況



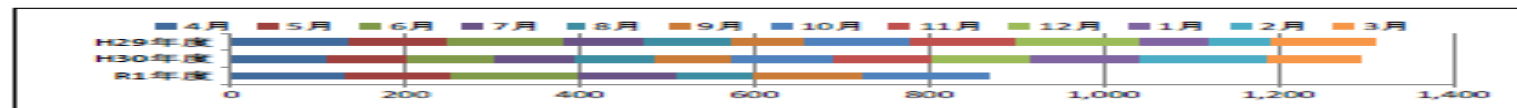
◎「大人の社会見学」開始年度までは増加、だったが

豊後大野市コミュニティバス利用状況(地区別、H28からの3か年)

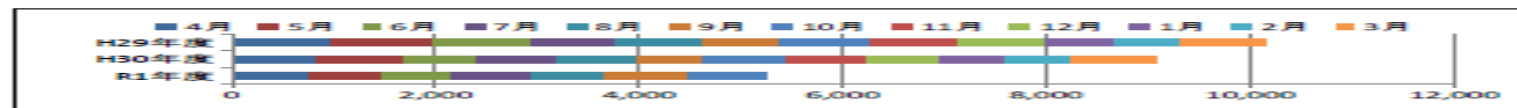
三重(1回目は優良事例で招待、今回)



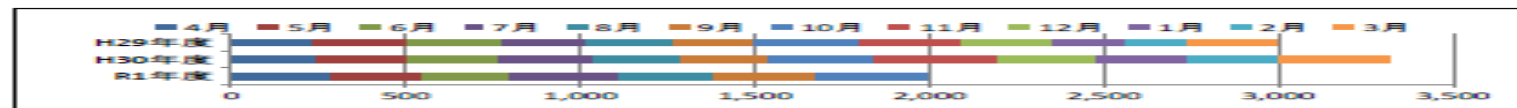
清川(3期)



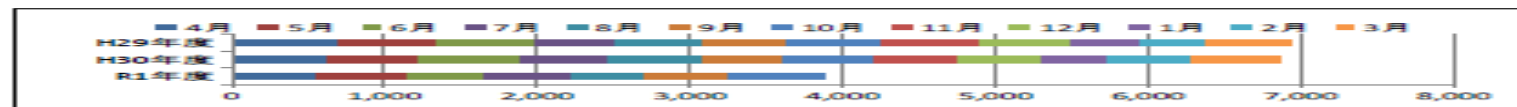
緒方(5期)



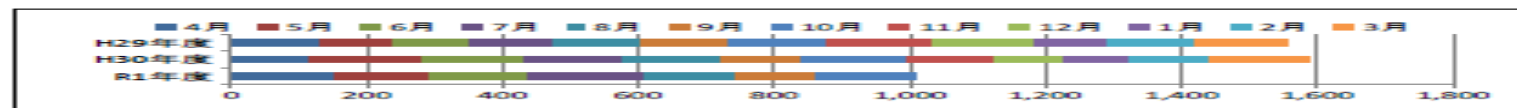
朝地(1期、2期)



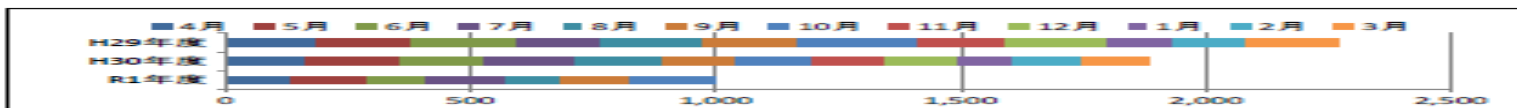
大野(4期)



千歳(1期)



犬飼



◎地域により利用に格差：計

ヘビーユーザー多かった三重で大きく減少傾向・・・どうした？

社会実験実施地区 千歳・朝地が増加 ⇔ 緒方は減少、清川・大野は微減

1. はじめに

2. 対象地域および「大人の社会見学」事業の概要

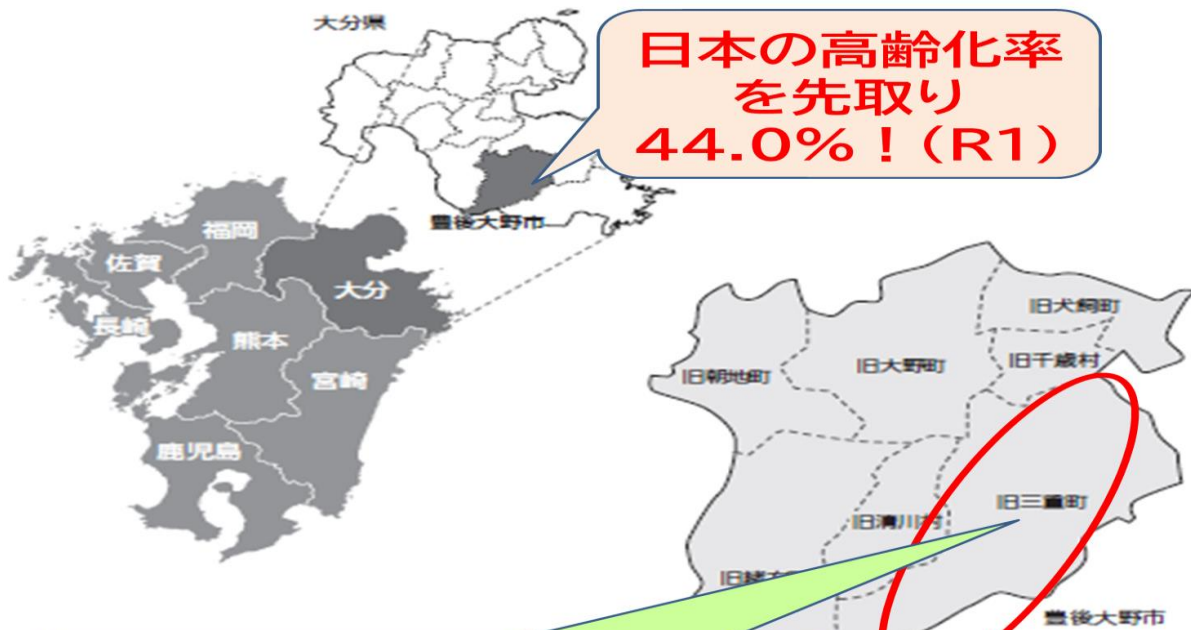
3. 2019年度(第6回)の実施内容について

4. 「大人の社会見学」参加者の意見

5. 「大人の社会見学」事業からわかったこと:まとめにかえて

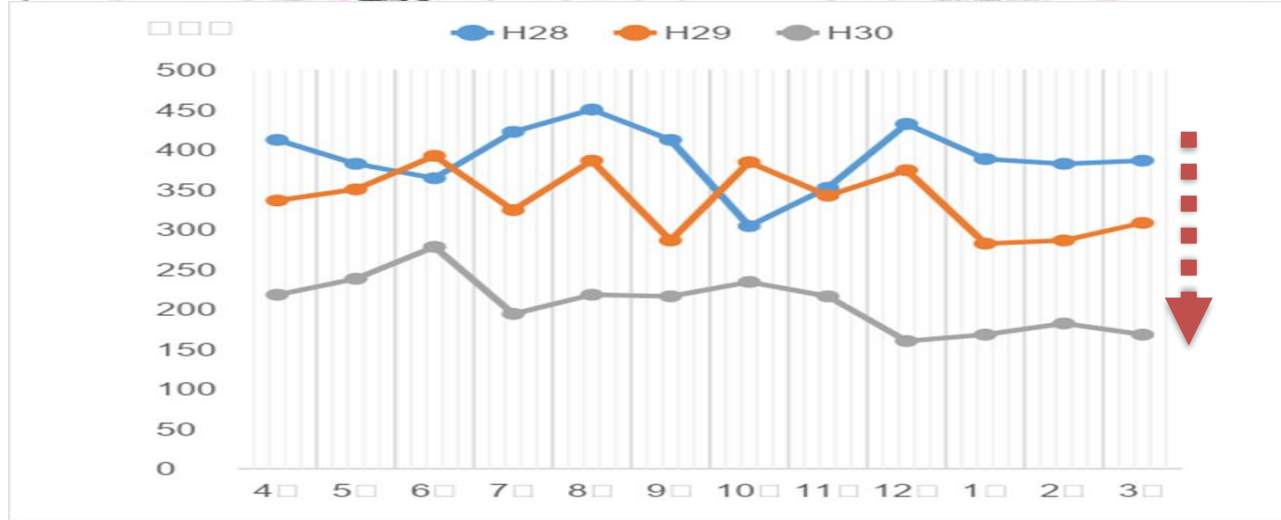
対象地域

豊後大野市・三重町地区
「山田線」



【今回の対象】旧三重町
同市の拠点(中心・施設等充実)
路線バス・コミュニティバスが直結
利用最多のバス停が
→地域間の差が大きい

利用者数市内最多
4年連続
↓
この3年ほどで急減



「大人の社会見学」事業について

- 2014年から開始、2019年で6回目(2020年は休止)
- 主体: 大分大学(経済学部経営システム学科大井研究室3年)、豊後大野市、大分県立三重総合高校(メディア科学科3年「研究」での選択者;2015以降)、日本工営福岡支店(福岡支店)
- 目的: 地域公共交通(コミバス・乗合タクシー・路線バス)の利用促進における「きっかけづくり」
- 内容: 公共交通の利用体験(おでかけ)お出かけ先の「目的」(昼食、買物支援、レク等)集落調査(事前、事後)参加者ヒアリング(自宅訪問)
- 高大連携に位置付け: 高校授業に大学生参加、教員等の大学ゼミ

R1三重総合高校・大分大学・豊後大野市の3者協働による社会実験イベント

大人の社会見学 第6弾

参加者募集

わくわく高校1日体験入学
～タイムスリップ!
あの青春をもう一度～

「明日は
学校で
勉強する」

「食欲の秋は
スイーツが
大好きだよ～!」

「家庭科室
で
クッキング
が大好きだよ～」

「前日に
作業したけん?」

★実施日時: 令和元年11月19日(火)9:30～13:30 ※イベント後、調査ご協力
★集合場所: 9:30市役所バス停(※山田線沿線の方は9:55～10:23各自宅最寄りバス停)
★実施内容: レクリエーション、一緒に昼食など

プログラム (予定) ※内容は変更になる場合があります。

- 1 限目 --- 社会の授業: コミュニティバス体験試乗 (市役所から三重総合高校まで移動)
- 2 限目 --- オリエンテーション: 学校紹介
- 3 限目 --- 体育の授業: わくわく整列・ボール運び
- 4 限目 --- 給食の時間: みんなで一緒に楽しい昼食 (協力予定: 豊後大野市野菜ソムリエコミュニティ) ※昼食後、ご希望の方は、買い物に高校生・大学生が付き添います。

お問い合わせ
豊後大野市役所 まちづくり推進課 ☎0974-22-1001 (内線 2442)



これまでの流れと内容:2014年から実施

大人の社会見学プロジェクトの経緯

4期(豊田JCOMMで発表)

高校生参加3期目
路線バス+コミバスで実験
旧大野町で実施(新設区間の日常利用促進)

5期(金沢JCOMMで発表)

高校生参加4期目
コミバスで実験
旧緒方町で実施 お出かけ促進

6期目(今回)

高校生参加
5期目
コミバスで実験
旧三重町(図の
赤丸)で実施
利用減少の要因
発掘と利用啓発

3期(福岡JCOMMで発表)

高校生参加2期目
あいのりタクシー運行地域で実験
旧清川村で実施(利用低迷の啓発)

2期(松山JCOMMで発表)

ここから高校生が参加
旧朝地町で実施(新設路線啓発)

1期(東京JCOMMで発表)

旧千歳村・旧朝地町で社会実験
大学生+自治体で実施

0期(帯広JCOMMで発表)

地域特性把握、公共交通利用実態
の把握

5期経過の課題:

- ①実験でも利用につながらない
→ 今後利用の可能性のあるのかの解析
- ②高校生の主体性:大学生との役割分担
→ 高校生が主体的に取り組めるか?

一例:ある年の様子(JCOMMでも既発表)

社会実験の様子



1. はじめに

2. 対象地域および「大人の社会見学」事業の概要

3. 2019年度(第6回)の実施内容について

4. 「大人の社会見学」参加者の意見

5. 「大人の社会見学」事業からわかったこと:まとめにかえて

社会実験の狙い・過年度からの改良点

・狙い

- ① コミュニティバスの**利用方法と利便性**を住民は享受？
- ② **高校生に主体的に取り組んでも**もらうことで地域について理解が深まる？

・過年度からの改良点

- ① **事前の集落調査＋バス試乗実施**；住民へ伝えるための予備知識
＝ 当該路線での利用目的・土地勘を理解
- ② **高校生メイン＋大学生サポート、型へ**；「何でもやりすぎない」
＝ 高校生が地区設定、イベント内容決定、に主体的に関与
(ただし、地区については最終的には行政が決定)

今回の内容

利用者目線で
バス体験
(案内・土地の理解)



自宅まで戻り、高校生と大学生
のコンビで聞き取り調査
(生活実態、感想、意識などの把握)



高校生主導の企画(食事、レク)
(高齢者カフェと連携)



高校生を体験



高校生発案の弁当で
みんなで昼



高校生企画のレクリエーション
上位者に賞品も

高校生に対して事前準備＝地域理解の醸成
(大学生との合同授業、体験乗車、意識把握)



- 参加者:沿線住民+高齢者クラブ有志(非沿線)約20名
- バス体験(山田線1周、沿線住民は往復)
- 高校での企画(高校生体験、レクリエーション、食事＝オリジナル弁当)
- 自宅ヒアリング
- 事前集落調査、バス路線の調査(乗車体験)

1. はじめに

2. 対象地域および「大人の社会見学」事業の概要

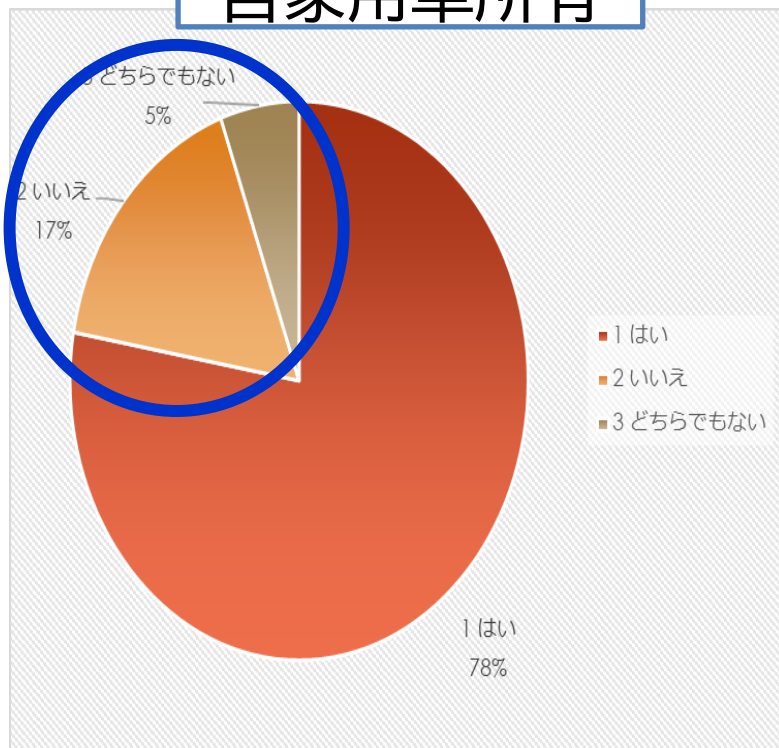
3. 2019年度(第6回)の実施内容について

4. 「大人の社会見学」参加者の意見

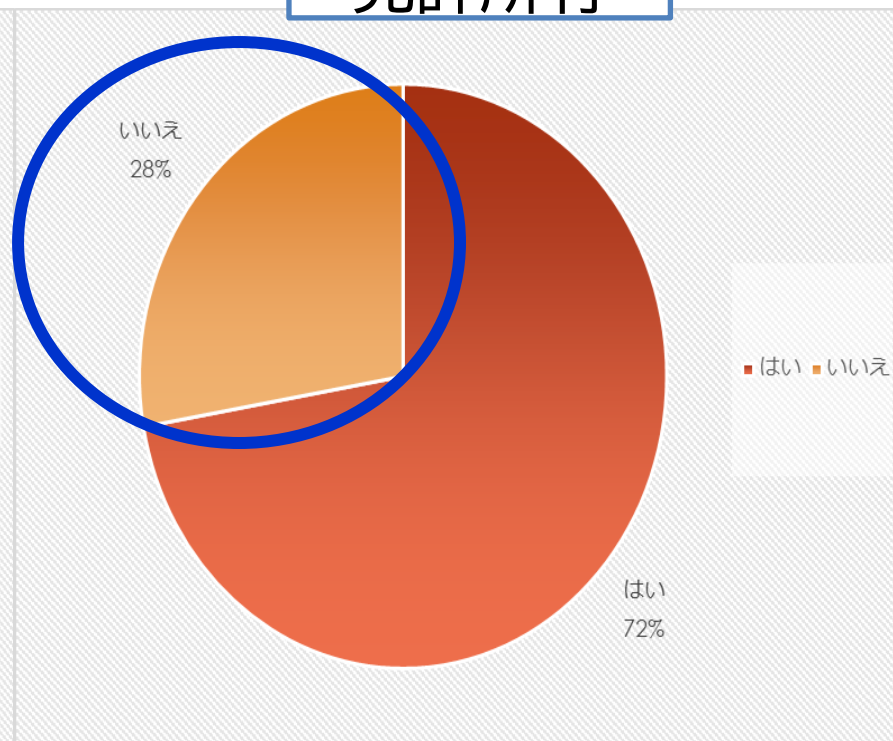
5. 「大人の社会見学」事業からわかったこと:まとめにかえて

参加者アンケート(+事前調査・ヒアリング)

自家用車所有

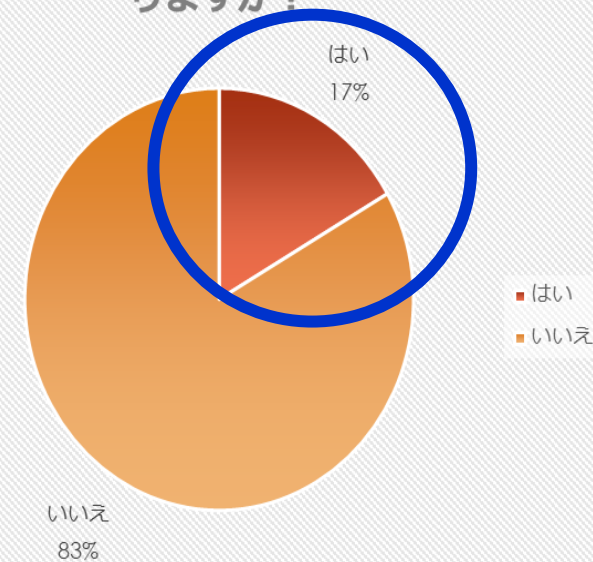


免許所有



コミバスの利用経験

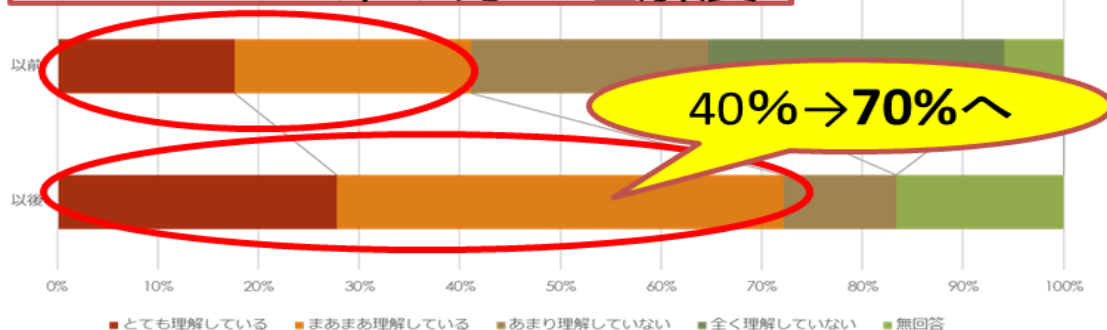
過去にコミバスを利用したことはありますか？



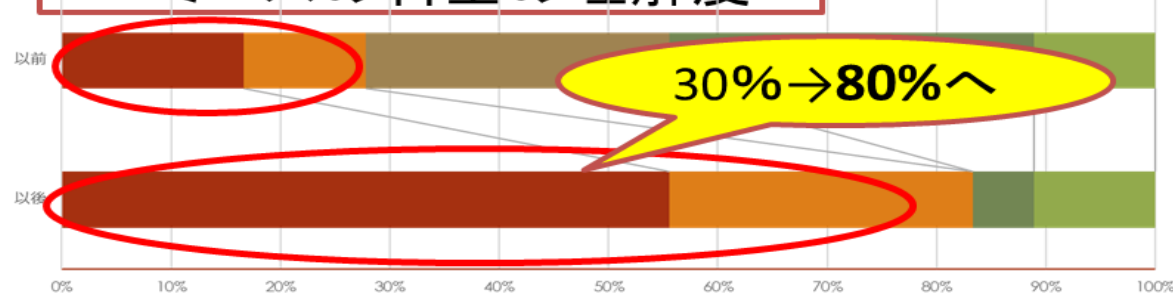
- 沿線住民： 利用頻度は低い(下がってきた？ =もとは利用の多い路線)
- 免許・自家用車の非保有は少ない：
非沿線の参加者がいたこと、5年前に比べ世代交代(?), が影響？

参加者アンケート(+事前調査・ヒアリング)

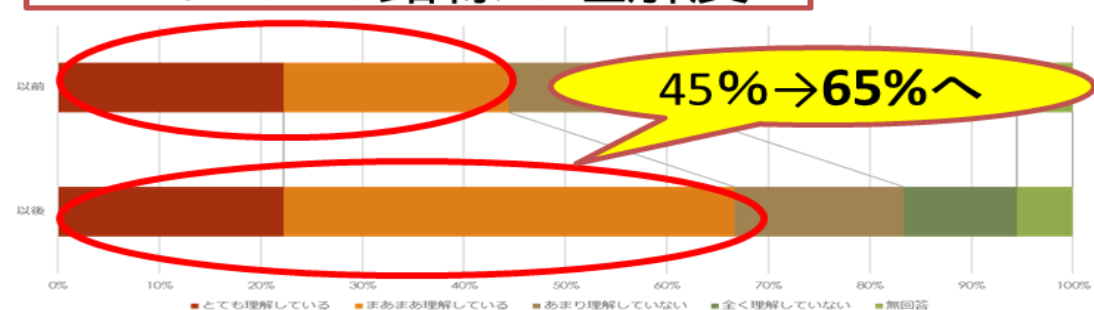
コミバスの乗り方の理解度



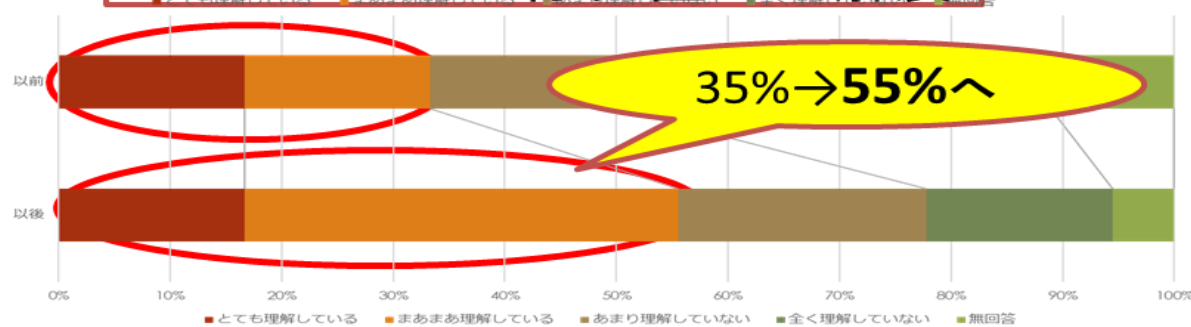
コミバスの料金の理解度



コミバスの路線の理解度



コミバスのバス停位置の理解度

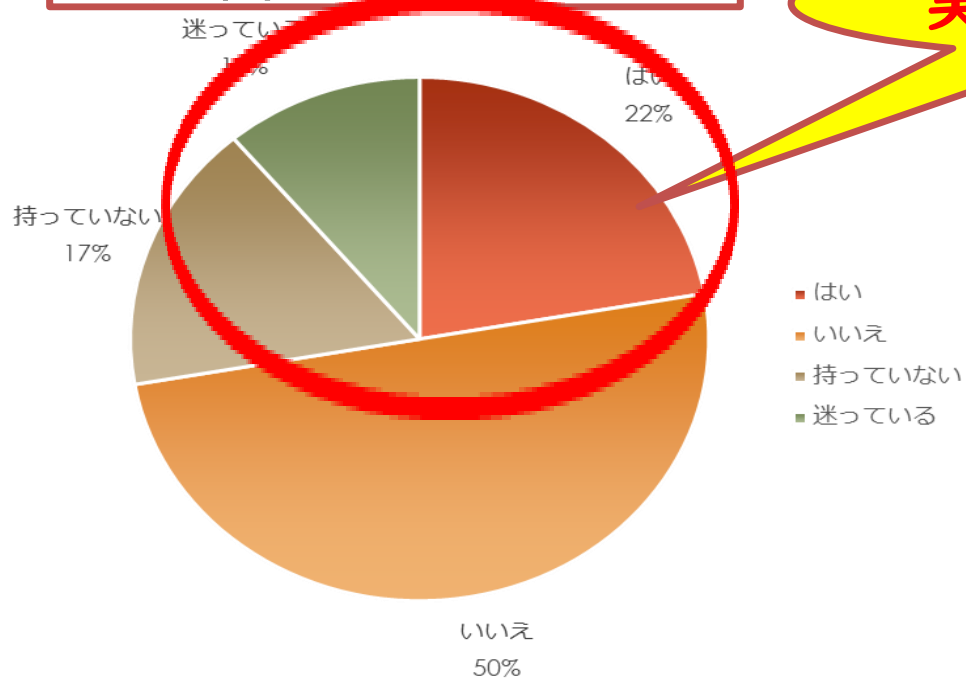


「認知度」「理解度」は上昇(社会実験の前後で)

👉 事前に聞く側がわかっていたので質問が的確だった可能性

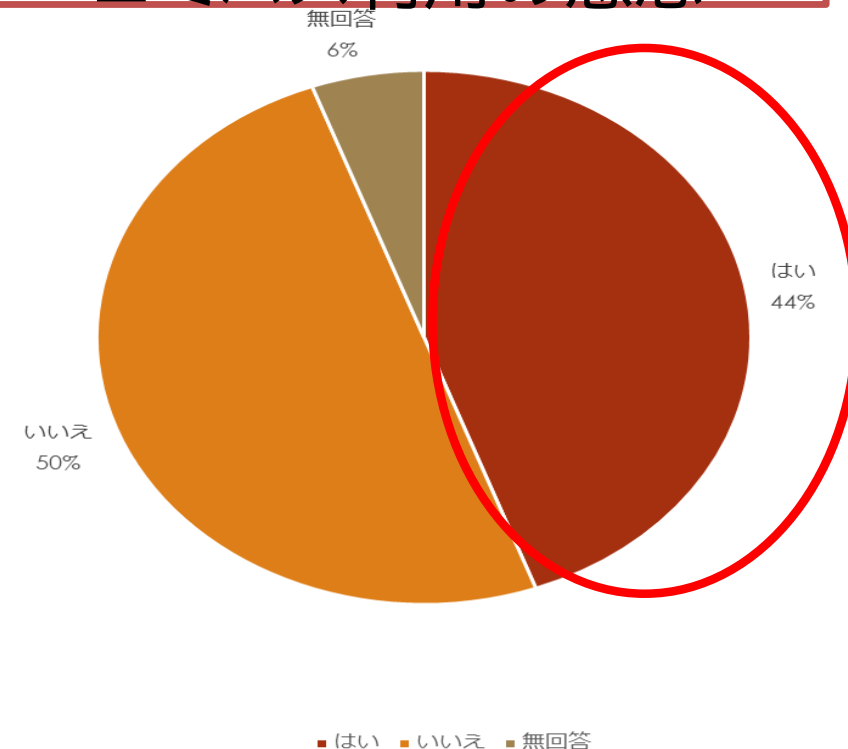
参加者アンケート(+事前調査・ヒアリング)

免許返納の意思



実は返したい

コミバス利用の意思



利用意向・免許返納意向もなくはない

⇔ 「迷い」「いいえ」の声：今はまだ乗らない、のではないか？

1. はじめに

2. 対象地域および「大人の社会見学」事業の概要

3. 2019年度(第6回)の実施内容について

4. 「大人の社会見学」参加者の意見

5. 「大人の社会見学」事業からわかったこと:まとめにかえて

(露払いから)7年やってみて

- (目に見える)効果は限られる:利用者増、減少ストップが限定的
(1期)千歳地区 → 行政も事前説明、利用が定着・継続
(1・2期)朝地地区 → 定着に時間要(実験後3年で増へ転じる)
スーパー(Aコープ)撤退も影響か
- 「参加者(呼びかける範囲)」の判断:意識づけの難しさに直結
「ヘビーユーザー」に限られる → 成立には人数要:「潜在」の判断に難
イベントには来るが使わない、の実態 ←その把握で良しとするか(調査)
- 高校生の感想:「やらされてる」感から「やっている」感へ
初期「大学生に従う」→「高校生も主体的に」:加減が双方難しい
何をもって成果とするか: 目標等の共有、調査の実施等に課題も

(1)「イベント」で誘引することの課題

- **行政ニーズ： 成果 = 人数**
財政支出する以上成果は必須：定量的成果は難しい現実
短期と長期
短期で利用者は増えない → 集客することが目的化？
集客がないと→声かけ→来るのは「ユーザー」でなく「一見さん」
- **本来は？： 成果 = 今後の利用者数(除く、一見さん)**
きっかけとしてはよかった：毎回のアンケートやインタビュー
満足度が「イベント」の満足度であり「公共交通利用」でない現実
☞ 参加者は「イベントよかった」どまり(一見さんだから)
「日常移動」+「豊かにする移動」が体感できるか
← 伸びたところはそれがあつた：プログラムに難儀？

(2)「高校生」「大学生」の課題

- 提案側に公共交通の理解が必要:使わないから、違う地域だから
～ 問題意識醸成が困難
- 現場に出ることで理解深度化
⇔ 実は地元生が少ない:どこか他人事?
- イベントの企画・実施などを高校生主導に
→ 地域課題理解向上に効果あり ⇔ 大学生との連携に課題も
(棲み分け方に苦労)
- 高校生・大学生の公共交通利用体験が低い:それがハードル?
→ 目的意識理解や提言に課題
- 大学生と高校生のレベル差:
何をゴールにするか、インタビュー実施(会話)などで迷いも

(3)「大人の事情」(行政の事情)の課題

◎ スピード感と連携(到達レベル設定)の課題

• 高校生コメント(プロジェクト参加学生による聞き取り)

準備期間が少なかった・場所選定が遅かった

→ 予算決定後でないとは動けない*地域調整に時間要

今後の利用を考えて、外に出かけるべきだった

利用見込みがある人をターゲットにするべき

→ プログラムとターゲット設定への課題:行政ニーズとの齟齬

• 「大人の事情」に起因する課題が多い～連携の課題～

自由度の利く大学(+高校生) ⇔ 利きにくい高校・行政 のズレ

大学生の意識変化: 熱量、自発性・主体性が初期からは変化

目標設定と「すみわけ」:丸投げはダメ、だと「分担」の程度が難しい

総括—「高・大・官・民」連携の現実

- 高校を巻き込む場合： 地域理解を優先 + 達成しやすい内容
「成果」と「価値」・レベルの問題 ← 高校側のニーズも配慮しつつ
地域の高校 ≠ 地域住民 を今後は理解必要
- 大学のかかわり方：「よそ者」「若者」効果
+「コーディネーター」「分析者」
わかりやすい成果が出るものは高校生へ
～ 「近い世代のお兄さん・お姉さん」としてフォロー
成果分析、インタビュー、コーディネート等「深い」ものは大学生主導で
- 行政のかかわり方：「属人性」脱却+「地域に出る」
初期の「露払い」効果： 行政が乗り込まないと無理
- (黒子)コンサルのかかわり方：時に教員、時に現場運営

総括—「社会実験」が残したものと今後

- 提案側に公共交通の理解が必要：使わない、違う地域～意識醸成困難
- 「社会実験(イベント)」の限界：行政の事情、地域の事情、大人の事情
→ 「結果」が出にくい



<今後> まずは高校生・大学生の公共交通の利用促進を：「自分事」化

→ そこができてから、地域へ発展を

(自分の感覚がないと、問題意識や提案が困難)

*今年度は「大人の社会見学」は休止

かわりに、高校生の公共交通利用促進にむけて調査研究実施中

(+ 駅前通りの利活用＝まちに集える場所をつくる プロジェクト 並行)

～ 通学利用からスタート(増加)し(=)、住民利用につなげる、の流れへ

ポスター
掲示しています
ブースでDVD
放映します



ご清聴ありがとうございました

本発表に関する問い合わせは下記までお願いいたします
大分大学経済学部門 大井 尚司
ooi-hisashi@oita-u.ac.jp

